

スーパー連携大学院プログラム履修要覧

1. 教育目的

スーパー連携大学院プログラムは、スーパー連携大学院コンソーシアムの正会員である大学、企業及び行政機関がそれぞれの特色を活かして、産学官連携による教育の質を保証したカリキュラムの実施とキャリアパスの確立、所属組織の異なる複数の教員による共同研究ベースの学位研究指導を行うことによって、グローバル化社会においてリーダーシップを発揮し、広く産業界や行政にわたってイノベーションによる価値の創造を担うことができる「志」の高い博士人材を育成することを目的としている。

2. アドミッション・ポリシー

スーパー連携大学院では、産業界や行政の広い分野でイノベーションの担い手として活躍する志を持ち、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を広く国内外から受け入れる。

[求める学生像]

1. ベンチャー精神旺盛で自立を目指す人
2. 実社会のさまざまな分野で創造的能力を発揮し活躍したい人
3. 専門分野への深い造詣の上にマネジメント力を兼ね備えたい人
4. 未来指向の先見性と革新性を身につけたい人
5. 質の高いコミュニケーション力を発揮したい人
6. リーダーとして尊敬される深い教養を備えたい人
7. 国際的感覚を備え、世界で活躍したい人

3. 学修・教育目標

学修・教育目標として下記の A～Hを設定し、これらの学修・教育目標の達成のために修得すべき知識と能力を明確にした科目群を配置している。学修・教育目標と科目群・科目類・科目との関係を表1に示す。

- A. <志> “志”教育により、旺盛なベンチャー精神を養うと共に、専門家としての高い志と自立性を涵養する。
- B. <基礎・専門知識> 質の保証された教養基礎教育およびそれぞれの分野の専門教育により、応用力のある確実な基礎知識と専門知識を習得し、専門的造詣を深める。
- C. <実践力・マネジメント力> 専門分野教育、MOT 教育およびプロジェクト実践教育(PBL ; Project-Based Learning)、インターンシップ、海外研修等)により、専門分野における学術体系およびその社会的影響について深い見識を持ち、当該分野の専門家としてのマネジメント能力を身につける。
- D. <創造性> 応用力のある確実な基礎知識と専門知識を習得し、プロジェクト等の実践的能力を身につけた上で、先見性に富んだ共同研究型サーティフィケート研究を遂行することにより、実社会のさまざまな分野で活躍しうる創造的課題解決能力を身につける。
- E. <先見性・革新性> “志”教育、教養教育および先見性に富んだ共同研究型サーティフィケート研究により、未来指向の先見性と革新性を身につける。
- F. <コミュニケーション力> “志”教育、教養教育およびプロジェクト実践教育により、日本語および外国語による論理的文章力をはじめ、ディベート力、プレゼンテーション力など、総合的に質の高いコミュニケーション能力とチームワーク力を身につける。
- G. <倫理・教養> 教養教育および自己啓発により、リーダーとして尊敬される倫理観と深い教養を身につける。
- H. <国際性・グローバルマインド> 海外研修、海外インターンシップ、国際サマースクール、国際会議参加、英語教育などを通して、世界で活躍できる国際的感覚と国際的視野を身につけ、あわせて“志”教育、教養教育、地域学などを通じてグローバルマインドを涵養する。

表1 学修・教育目標と科目の関係

科目群・科目類・科目			学修・教育目標							
			A 志	B 基礎・専門知識	C 実践力・マネジメント力	D 創造性	E 先見性・革新性	F コミュニケーション力	G 倫理・教養	H 国際性・グローバルマインド
“志”教育科目群			◎		○	○	○	○	○	○
教養科目群	教養基礎科目類	基礎教理・論理科目類		◎		○	○	○	○	
		MOT科目類			◎				○	
	科学技術史	○		○		○		◎		
教養応用科目類			○		◎		◎	○	◎	○
専門科目群	専門基礎科目類			◎		○				
	専門展開科目類			◎		○				
	専門特論科目類			◎		○				
	地域学科科目類			○			○		◎	◎
プロジェクト実践科目群	PBL				○	◎		◎		
	短期インターンシップ				○	○		◎		
	海外研修, 共同研究長期インターンシップ				○	○		◎	○	◎
研究プロポーザル										
共同研究型サーティフィケート研究				○	◎	◎	◎	○		

◎：対応，○：関連，○：一部関連

4. 教育プログラム

4-1 スーパー連携大学院プログラムとは

スーパー連携大学院プログラムは、広く実社会でイノベーションを担う志の高い博士人材育成プログラムであり、スーパー連携大学院コンソーシアムの正会員大学の大学院博士前期課程の入学者の中から希望する学生を募って、プログラム受講生とする。従って、スーパー連携大学院プログラム受講生は、同時に各大学の大学院研究科・専攻の所属学生であり、学年も同一であるものとする。

スーパー連携大学院プログラムは、博士前期課程（標準2年）と博士後期課程（標準3年）を一貫する標準5年間のプログラムである。ただし、博士後期課程への進級時にはスーパー連携大学院プログラム博士前期課程の科目修得の修了要件と共に、博士後期課程で行う共同研究型サーティフィケート研究のプロポーザル（研究課題提案と研究計画）の審査に合格した受講生が博士後期課程への進級を認められる。

スーパー連携大学院では、博士前期課程の修了要件を満たして博士後期課程に進学する学生に対して「イノベーション博士候補（Innovative PhD Candidate）サーティフィケート」を授与する。また、博士後期課程の修了要件を満たし、共同研究型サーティフィケート研究の成果論文の審査に合格した受講生に対して「イノベーション博士（Innovative PhD）サーティフィケート」を授与する。

本教育プログラムは、標準年限を大学院博士課程の5年間とするが、博士前期課程(修士課程)の2年間で修了することもできる(イノベーション修士サーティフィケート修得)。

また、イノベーション修士サーティフィケートを修得し、就職した後に博士後期課程に入学する場合も本プログラムを継続して受講することができる。

4-2 スーパー連携大学院プログラムと所属大学院との関係

スーパー連携大学院プログラム受講生は、所属大学院研究科・専攻の教育科目を履修すると共に、スーパー連携大学院プログラムが提供する教育科目を履修する必要がある。

スーパー連携大学院プログラムの修了要件と所属研究科・専攻の修了要件は、専門科目群については共通する部分が多いが、それに加えてスーパー連携大学院プログラムでは「志」教育科目群、「教養科目群」、「プロジェクト実践科目群」、「共同研究型サーティフィケート研究」、「地域学科目類」などの修得を条件としている。一方、現状では多くの大学で大学院博士前期課程の修了条件として課している修士論文研究は、スーパー連携大学院プログラムでは修了条件としていない。

これらの関係を、5年間の教育プログラムの年次計画として図1に示す。

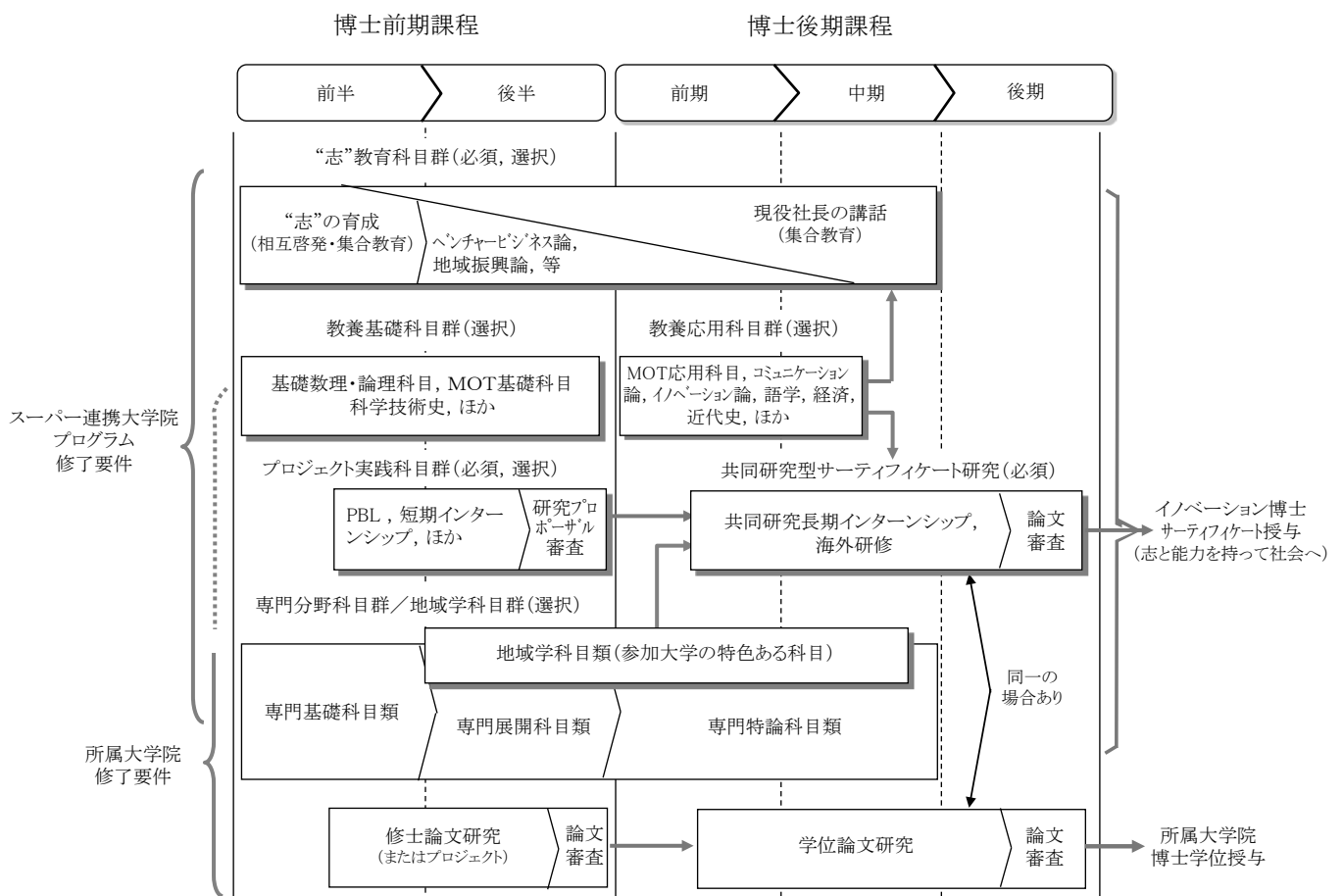


図1 年次計画

4-3 教育方法

- スーパー連携大学院コンソーシアム参加大学の単位互換科目によるカリキュラムによって、イノベーション博士候補サーティフィケート、イノベーション修士サーティフィケート、イノベーション博士サーティフィケートの授与に必要な条件ならびに所属大学院学位授与の条件の双方に必要な教育が行われる。
- 単位互換科目は、eラーニングシステムでの遠隔受講を可能とする。eラーニングとして、自習形式、受動的講義形式、全員参加型講義形式などのシステムを用意する。
- 実験等を行うことが必要な科目については、集合授業への参加を必要とする(eラーニングシステムでの遠隔講義受講では単位取得が出来ない)。

- ・講義では討論の時間が設けられ、対話型の授業が進められるので積極的に発言することが求められる。
- ・スーパー連携大学院プログラムでは、対面での受講あるいはeラーニングシステムのライブでの受講を必須とする。

4-4 評価方法

(1) 演習・課題・レポート

- ・毎回あるいは単元毎に出される課題をそれぞれ定められた提出期限までに提出する。合格は、60点以上とする。

(2) 試験

- ・筆記試験(定期・最終筆記試験)を行い60点以上を合格点とする。あるいは、複数の筆記試験と最終レポートを組み合わせで評価し、60点以上を合格とする。
- ・試験問題と解答例、評価方法をインターネット等で外部に開示する。

(3) 評価

- ・評価はS(100~90点), A(89~80点), B(79~70点), C(69~60点)として記載する。

(4) 成績指標値(GPA)の算出

- ・成績指標値の算出は以下の方法によって行う。

- ① 評価点は、S=4, A=3, B=2, C=1
- ② 取得点の計算は、当該科目で得た 評価点×単位数。
- ③ 算出は、 $GPA = (\text{取得点の合計}) / (\text{取得した科目の単位数の合計})$

5. 共同研究の実施方法

スーパー連携大学院が行う共同研究は、大学、企業等からの複数の教員、研究者、受講生によるプロジェクト研究を基本とする。その実施方法の概念図を図2に示す。

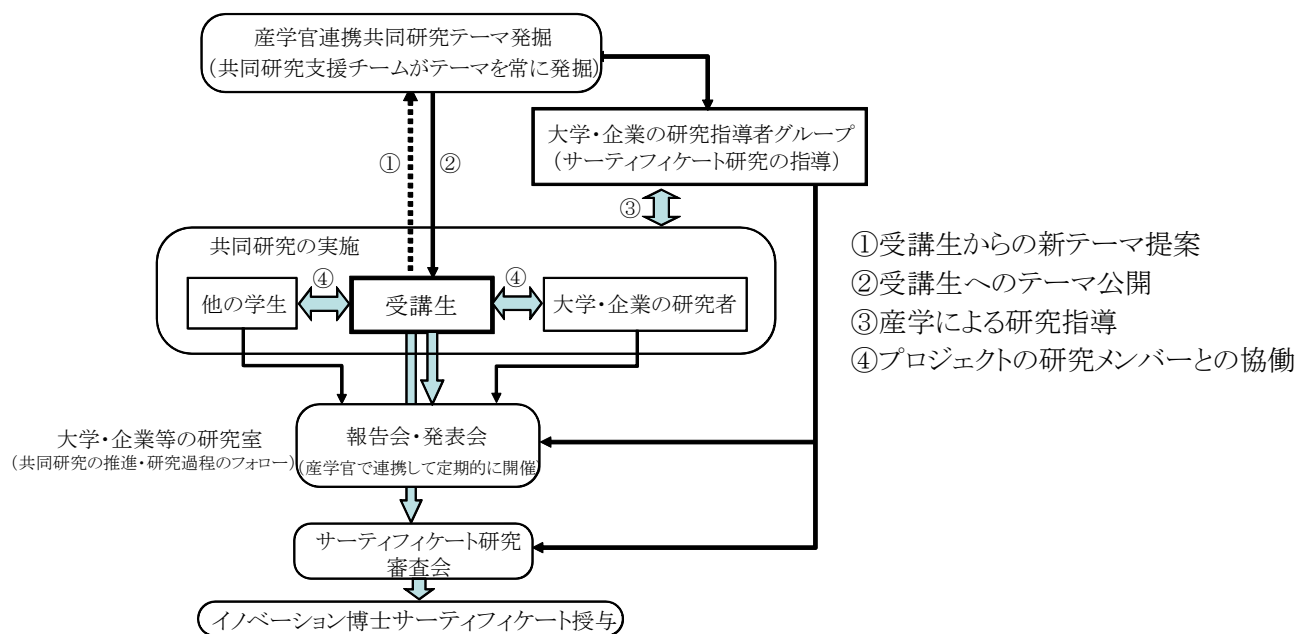


図2 共同研究等の連携体制とサーティフィケート研究の概念図

共同研究のテーマとしては、概略以下の4タイプが想定される。

○タイプA: ドリームテーマ

- ・夢のある大規模プロジェクトであり、プロジェクト実現に必要な数多くの要素となるテーマについてそれぞれ共同研究を行うもの。
- ・関係者による研究会を立ち上げて、テーマの探索、共同研究テーマの設定などを行い、設定されたそれぞれ

の共同研究に受講生が参加する。

○タイプB:既契約共同研究テーマ

・個々の企業と教員が既に共同研究を実施中のテーマであり、そこへ受講生が参加する。

○タイプC:潜在共同研究テーマ

・企業が将来に望むテーマであり、企業からの提案に対して教員、受講生が参加する。

○タイプD:学生発案テーマ

・受講生の新たなテーマの発案・提案に対し、関心を持つ企業を募り、新たな共同研究としてスタートさせる。

6. プログラム履修規程

6-1 履修科目群(科目類・科目を含む)

スーパー連携大学院プログラムでは、博士前期課程と博士後期課程それぞれの修了時にサーティフィケートの取得を目指すため、受講生は、メンター(指導教員、コーディネーター等)と相談し、毎年期首に所属大学院の履修科目を含め総合的に履修計画を立てるものとする。

各科目群の履修は原則として以下のように行う。

- (1) “志”教育科目:スーパー連携大学院カリキュラム表より博士前期課程から博士後期課程の期間に履修する。
- (2) 教養基礎・応用科目:スーパー連携大学院カリキュラム表より博士前期課程から博士後期課程の期間に履修する。
- (3) 専門基礎・展開・特論科目:スーパー連携大学院カリキュラム表から選択する。
専門科目所要単位(博士前期課程 12 単位以上のうち 8 単位まで、博士後期課程 8 単位以上のうち 6 単位まで)は所属大学院の専門科目(ゼミ、演習等、修士論文は対象にしない)での充当を認める。ただし、その評価は成績指標値(GPA)の算出に使用しない。なお、履修する専門科目群が所属大学院の専門科目に偏らないことが望ましい。
- (4) 地域学科目:スーパー連携大学院カリキュラム表より博士前期課程から博士後期課程の期間に履修する。
- (5) プロジェクト実践科目:短期インターンシップは博士前期課程の期間に所属大学の規程に従って行い、単位数は実施時間により付与する。共同研究長期インターンシップおよび海外研修は博士後期課程の期間に行う。
- (6) 研究プロポーザル:博士後期課程で行う研究課題提案と研究計画を提出し、審査に合格する。
- (7) 修士論文研究(またはプロジェクト):所属大学院の規定に従って行う(スーパー連携大学院プログラムの履修要件とはしていない)。
- (8) 共同研究型サーティフィケート研究論文:博士後期課程の期間に、共同研究長期インターンシップによる企業等との共同研究(プロジェクト研究:大学と企業で構成される研究グループが行う研究)へ参加して行う。共同研究で行った研究成果を博士学位論文に相当するサーティフィケート研究論文としてまとめる。サーティフィケート研究論文は、スーパー連携大学院コンソーシアムが設置する審査委員会において審査される。
- (9) 学位論文研究:所属大学院の規程に従って行う。場合によっては共同研究型サーティフィケート研究論文と同一となる。
- (10) 英語:TOEICを受験する(年 1 回以上)。博士前期課程で 600 点以上、博士後期課程で 700 点以上取得することを目標とする。

6-2 科目群(科目類・科目を含む)の履修方法

(1) 各科目群の履修は、下記の手続きを必要とする。

・所属大学院に設置されている科目は、所属大学院の手続きに従い履修登録を行う。

・所属大学院以外のプログラム参加大学に設置されている科目は、特別聴講学生として履修登録を行う。

(2) 各科目群の履修は、原則として下記の方法で行う。

・所属大学院に設置されている科目は、通常の対面受講を行う。

・所属大学院以外のプログラム参加大学に設置されている科目は、eラーニングによるライブ受講を行う。

・同時間帯の講義の受講は認めない。ただし、以下の 3 条件を満たす場合、講義毎にスーパー連携大学院

プログラムのオンデマンド講義での重複受講を認める場合がある。

- ①他の講義とスーパー連携大学院プログラムの講義が重なる。
- ②スーパー連携大学院プログラムの講義をライブで受講できない明確な理由がある。
- ③スーパー連携大学院プログラムの講義担当者が以下を認め、実施する。
 - a) オンデマンドでの受講を認める(講義内容に依存)。
 - b) 毎週の宿題, 筆記試験等は他の受講生と同様に課す。
 - c) 質疑の時間を別途個別に設ける。

(3) 海外研修は、下記の実施要領で行う。

内 容	海外の大学, 研究機関, 企業等での研修とする。 本人の国際会議での発表, 本人の研究に関連する海外研究室等の訪問とそこでの議論などを組み合わせて実施することも可能とする。ただし, 語学研修は含まない。
期 間	原則として連続する4週間以上
実施手順	①本人, 指導教員, スーパー連携大学院のコーディネーターの3者で研修計画を立て実施計画(所属大学や外部留学支援制度の応募計画を含む)をスーパー連携大学院に提出する。 ②本人, 指導教員, スーパー連携大学院のコーディネーターの3者で相談し, 所属大学の「留学支援」「海外インターンシップ」などの支援制度や IAESTE 等の外部留学支援制度に応募する。 ③上記の支援制度を利用できなかった場合は, スーパー連携大学院に支援を請求する。 ④終了後実施報告書をスーパー連携大学院に提出する。
費 用	所属大学や外部留学支援制度を利用できなかった場合は, スーパー連携大学院が別に定める交通費を補助する(海外研修補助金申請要項)。

(4) 共同研究長期インターンシップは、下記の実施要領で行う。

内 容	共同研究先あるいは関連機関等で共同研究長期インターンシップを実施する。共同研究長期インターンシップが海外で行われる場合には, その実施計画の中に「海外研修」を含めることができる。
期 間	原則として3か月以上(目安: 週の半数程度以上の滞在が計12週以上となること)。実施場所が海外で, 連続して行う場合, 「海外研修」も含み4週間以上とする。
実施手順	①本人, 指導教員, 共同研究先担当者, スーパー連携大学院のコーディネーターの4者で相談し, 実施計画を作成し, スーパー連携大学院に提出する。 ②スーパー連携大学院のコーディネーターが共同研究先と交渉し諸条件を決定する。 ③終了後, 実施報告書をスーパー連携大学院に提出する。
費 用	共同研究先が滞在費や交通費等を負担することを基本とするが, 先方が制度を持たない場合は, スーパー連携大学院が別に定める交通費を補助する(共同研究長期インターンシップ補助金申請要項)。

(5) 英語: TOEIC のスコアを博士前期課程で600点以上, 博士後期課程で700点以上取得することを目標として, TOEIC を毎年1回以上受験し, 達成度を確認すること。スコア達成のために「英語特別プログラム」の活用や各地域で年数回実施される試験日に合わせ計画的に受験する。

また, 受験料が所属大学で補助されない場合は, コンソーシアムが受験料1回分/年を補助する。その場合, 証明書類として受験料の領収書とスコアの公式認定証(写)を提出する。

6-3 受講の取り止め

病気その他やむを得ない事情により受講を取りやめようとするときは, 主指導教員(メンター)の承認を得た上で, 受講取り止め願いを提出すること。

7. プログラム履修要件

7-1 博士前期課程

博士前期課程では、表2に示す科目の単位を取得し、それらの成績指標値(GPA)が3.0/4.0以上を目指す。さらに、博士前期課程を修了し、博士後期課程に進学する場合は、研究プロポーザル(研究課題の提案および研究計画)の審査に合格する必要がある。

表2 博士前期課程

	科目群	科目類	所要単位	
授業	“志”教育科目群	選択	≥2	≥4
		必修 現役社長の講話	≥2	
	教養基礎・応用科目群	選択	≥4	
	専門科目群 *1	選択 専門基礎科目類	≥12	≥14
		選択 専門展開科目類		
必修 地域学科目類		≥2		
実践	プロジェクト実践	必修 短期インターンシップ	実施時間による(*2)	
	研究プロポーザル	必修 サーティフィケート研究プロポーザル *3	-	
	英語	必修 TOEIC スコア目標:600点以上	-	
取得単位合計			≥30	

*1 専門基礎科目類、専門展開科目類はスーパー連携大学院カリキュラム表から選択する。

専門科目所要単位(12単位以上)のうち8単位までは所属大学院の専門科目での充当を認める。ただし、その評価は成績指標値(GPA)の算出に使用しない。

なお、履修する専門基礎科目、専門展開科目が所属大学院の専門科目に偏らないことが望ましい。

*2 短期インターンシップの単位数は実施時間により付与する。ただし、その評価は成績指標値(GPA)の算出に使用しない。

2015年度以前に実施の場合は所属大学の規定による。実施時間には、インターンシップに付随する研修会、報告会等の時間も含むものとする。

45時間以上 90時間未満 1単位

90時間以上 180時間未満 2単位

180時間以上 4単位

*3 博士前期課程を修了し、博士後期課程に進学する場合は研究プロポーザルの審査を受ける。

7-2 博士後期課程

博士後期課程では、表3に示す科目の単位を取得し、それらの成績指標値(GPA)が3.0/4.0以上を目指す。

表3 博士後期課程

	科目群	科目類	所要単位	
授業	“志”教育科目群	選択	≥2	≥4
		必修 現役社長の講話	≥2	
	教養基礎・応用科目群	選択	≥4	
	専門科目群 *4	選択 専門展開科目類	≥8	≥10
		選択 専門特論科目類, 他		
必修 地域学科目類		≥2		
実践	プロジェクト実践	必修 共同研究長期インターンシップ *5	-	
		必修 海外研修 *6		
	産学連携共同研究	必修 サーティフィケート研究論文	-	
	英語	必修 TOEIC スコア目標:700点以上	-	
取得単位合計			≥20	

*4 専門展開科目類, 専門特論科目類他はスーパー連携大学院カリキュラム表から選択する.

専門科目所要単位(8単位以上)のうち6単位までは所属大学院の専門科目での充当を認める. ただし, その評価は成績指標値(GPA)の算出に使用しない.

なお, 履修する専門展開科目, 専門特論科目が所属大学院の専門科目に偏らないことが望ましい.

*5 共同研究長期インターンシップ終了後, インターンシップ先より評価を受ける.

*6 海外研修終了後, 指導教員より評価を受ける.

7-3 短期修了

標準年限よりも短時間で, それぞれの修了要件を満たした場合には, 所定の修了の場合と同様に該当するサーティフィケートが授与されるものとする.

8. サーティフィケートの授与

8-1 サーティフィケート授与の要件

サーティフィケート	授与要件
イノベーション博士候補サーティフィケート	博士前期課程を修了し, 博士後期課程に進学する者
イノベーション修士サーティフィケート	博士前期課程を修了した者(博士後期課程に進学しない者)
イノベーション博士サーティフィケート	博士後期課程を修了した者

8-2 サーティフィケートの審査

サーティフィケート審査は, 以下の履修要件の取得状況を総合的に評価し, 判定する.

- (1) 科目群の履修状況
- (2) 所定科目の成績指標値(GPA)
- (3) 短期インターンシップの実施状況
- (4) 共同研究長期インターンシップ(イノベーション博士サーティフィケートのみ)
- (5) 海外研修(イノベーション博士サーティフィケートのみ)
- (6) 英語の学力達成度
- (7) 学修・教育目標達成度
- (8) サーティフィケート研究プロポーザル(イノベーション博士候補サーティフィケートのみ)
- (9) サーティフィケート研究論文(イノベーション博士サーティフィケートのみ)

9. 受講生支援

9-1 生活支援

受講生の生活支援全般は, 基本的には受講生が所属する大学の担当部署が行う. また, スーパー連携大学院プログラムを受講する博士後期課程の受講生に対し, 修学に必要な経済的支援として給付型の奨学金を支給する(詳細は別に定める).

9-2 就職支援

スーパー連携大学院コンソーシアムに参加している企業等を含めて就職支援を行う.

10. スーパー連携大学院の運営組織

スーパー連携大学院は, 会員となっている大学, 企業および行政機関等から組織された一般社団法人スーパー連携大学院コンソーシアムによって運営される.

会員の一覧はホームページ(<http://www.super-daigakuin.jp/memberlist.html>)をご参照.